News Letter of Sapporo Nature Research & Interpretation Office

調査館通信

26

2004.
01-12.

2005.01 発行

http://www.cho.co.jp/

制作・発行＝さっぽろ自然調査館

◆〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
◆電話＝011-(892)-5306　ファクス＝011-(892)-5318
◆電子メール＝cho-tusin@cho.co.jp / chosakan@cho.co.jp
◆郵便局払込口座＝02740-2-58150〔(株)さっぽろ自然調査館〕

新年年賀状号

最近の樹脂標本作品特集

花のしくみを観察する

ネズミの頭骨、歯の観察

成長過程を観察する

石の裏に水生昆虫

世界最大カブトムシの幼虫

成長過程を観察する

三角柱セット

滝野・湿地環境づくり（10月）

アポイ岳機器設置（10月）

釧路・タネ集め体験（10月）

タネのカウント（10月）

西野ネズミハウス（10月）

滝野・木の実調査会（10月）

滝野・ササの工作（11月）

●新年のご挨拶・2004年 → 1頁
●今月までの活動・ニュース → 1頁・裏表紙全部

新年のご挨拶　2005 年

渡辺 修

さっぽろ自然調査館の設立から8回目のお正月、そしていよいよ会社としては5周年となりました。本年も、様々な面でさっぽろ自然調査館をよろしくお願い致します。今回も結局、例年通り通信を正月発行するだけにとどまり、申し訳ない限りです。

しかも今回は活動報告のみの単独号で、年賀状を兼ねてのご挨拶です。記事やイラストを準備できなくて、とりあえず活動だけでもお知らせです。年明けには、さまざまな記事や企画がスタートするはず（今年こそ！）ですので、楽しみにお待ちいただければと思います。

今月までの活動・ニュース
年間報告スペシャル 2004

今回もまたまた前回から一年の間隔があいてしまいましたので、活動報告は「年間報告」という形で、いろいろな感想・コメントも含めた拡大スペシャルとしてお届けします。前号の続きなので、2003 年 10 月からはじまります。

10 月（2003 年）

●滝川花卉資源調査〔3 日、24 日、30 日〕

野生植物の中から切り花になりそうな植物を探して、栽培・育種し、北海道のオリジナル切り花を創出しようという道の事業。調査館が委託されているのは、資源の候補になりそうな植物をリストアップして、採集するところ。どこでも採集できるわけではないので、今年度はひとまず発注元のある滝川市の道立畜産試験場内で種子の採集を行なった。広大な敷地は大半が牧草地などとなっているが、一部には二次林や湿地なども含まれている。ここでは以前、滝川市美術自然史館の観察会を行なったことがある。クサレダマ・オカトラノオ・エゾノコンギクなど 56 種の種子を採集したが、果たしてこの中に将来有望なものは含まれているだろうか。　（に）

● 釧路カラマツ林再生現地検討会〔18 日〕

釧路・達古武地域における自然林再生事業の一つとしてスタートした環境省所管カラマツ人工林における調査。この日は、北大・道立林試・京大演習林・森づくりセンターなどの方を呼んで、現地を見て今後どうすればよいかを検討する会を開催した。再生事業には初期から関わっている北大農学部の中村太士さんや、苫

小牧演習林で広葉樹林の育成をしていた石城謙吉さん（我々が学生時代にやっていた研究会の顧問でした）などが参加。現地案内と説明は、アークスの孫田さん、雪印種苗の鈴木さん、私で行なった。検討会は盛り上がって楽しかったが、「とりあえずあまりいじらずに様子見たら」という意見が林業サイドの人も生態学系の人にも多かった印象。　（お）

11 月

●森林と市民を結ぶ全国の集い 2003 北海道〔1～4日〕

札幌で開かれた、森林と市民との関わりを考える催しに、副実行委員長の孫田さんに誘われて、渡辺修と展之が一部に参加。旭山で行なわれたワークショップでは、森の中に市内の平岡どんぐりの森・西野フォレスターズクラブといった市民グループが「出店」 を開く形で行なわれた。参加者は好きなものに参加するスタイルで、なかなか面白かった。

分科会は、かなりの参加者数で議論もにぎわっていた。それぞれ、森林と××という形のテーマ設定だったが、必ずしも森林と市民の関わりに収れんしない感じもした。　（お）

●釧路湿原自然再生協議会スタート〔15 日〕

主に開発局と環境省が主導する釧路湿原の自然再生事業で、全国でも最初の法律（自然再生推進法）にもとづく「協議会」が設置された。この協議会は、希望する人なら誰でも委員になって自然再生を協議できるもので、行政がいくぶんし意的に選んだ大学の教官などで構成される今までの委員会・検討会に比べると、大きな前進とは言える。法律自体はいろいろ懸念材料も多いが、最初の事例となる釧路で前向きの成果が出てくればと思う。去年から自然再生の一部に関わっていることもあり、委員として申請して協議会に入る。当事者の企業？が委員として入るのはどうかという議論もあったが、あくまでＮＧＯの「さっぽろ自然調査館」として、希少種保全や環境教育に関わればいいや、という理屈（笑）で、参加することにする。

結果的に情報が流れるのが委員ばかりなので、入っていて正解の気が。全体構想を作成するグループに顔をつっこんで、このあとエライことにはなりましたが、詳しくは後段で。会議の方は 100 名というスゴい人数が参加して、とても議論をするとかいう状態ではなく、きわめてセレモニー的なものだった。　（お）

1 月（2004 年）

●札幌市樹脂標本講座〔24 日～〕

札幌市博物館活動センターの講座として、昨年度に引き続き「透明アクリル樹脂封入標本作製講座」が開かれる。セン

ターにアクリル標本を納める調査館の指導で3週にわたって標本作りを指導した。今回は親子限定で20組余が参加した。子どもが主体となり、子どもが作るのを親が手伝ったり、見守たっりする形で行なったため、自分で作りたいと思う親御さんも少なくなかったよう（笑）。

各自持ってきたものや、こちらで用意した花・ヤゴの抜け殻・貝殻・木の実などの生き物の標本を封入した。なかにはアニメキャラのフィギュアを封入した子も・・・

作業工程は、1週目にデザインと土台づくり、2週目に標本の接着、3週目に型抜きと型磨きを行ない、3週目に完成品の鑑賞会を行なって、お互いの作品を見せあった。みな控えめだったが作品の出来には満足していた様子。今回は子ども中心だったが、みな聞き分けもよく作業の進み具合のバラツキも少なく、前回に比べてスムーズに進行できていた。

対象外だった大人（特に年配の男性の方）からの講座への問い合わせが多かったらしく、わざわざ見学しに来た方もいらして、忙しいスタッフを捕まえては執ように質問をしていた。

なお、今年度も同様のアクリル樹脂標本づくりの講座が毎週土曜の1/22・1/29・2/5に3週にわたって行なわれる。今回は子ども・大人の両方を対象にしているので、関心のある方は、センターのホームページをご覧ください。　（の）

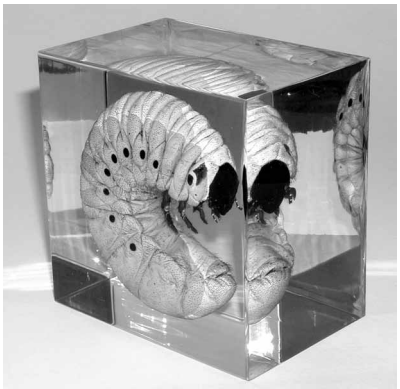
http://www.city.sapporo.jp/museum/

2月

●ヘラクレスヘラクレス訪問〔19日〕

封入標本用にクワガタ標本を提供していただいている三浦さんに、カブトムシやクワガタを中心に昆虫を専門に扱っているお店「ヘラクレスヘラクレス」を紹介される。札幌市の八軒にあるお店には、所狭しと国内はもちろん世界各地のクワガタ・カブトムシの成虫・幼虫が飼育ケースに入れられて並べられていて壮観。

お店の常連さんも多いらしく、いろんな人が出入りしていてお店はとても活気があった。店長の山内さんにウチで作っている封入標本を見せると、用意できる標本なら提供するから欲しいものがあれば言ってと、気さくに応対してくれる。そして、世界最大のカブトムシといわれる巨大なゾウカブトの幼虫を、1匹は樹脂封入して返すことを条件に2匹いただく。そう安くはない、手塩にかけて育てた幼虫を惜しげも無く提供していただき恐縮。その後、封入標本にしてお返した。ゾウカブトの幼虫の迫力は写真をご覧ください！　（の）



3月

●樹脂標本営業作戦・地域環境計画編〔12日〕

以前から話はいただいていたが、東京の（株）地域環境計画の高塚社長が来道した折りに、ぜひ樹脂標本を東京でも売り込もうという話をいただく。特許・実用新案なども積極的にとって、調査会社

の勉強会などにも活用して、教材もセットで等々ということで、いろいろと楽しい夢になった。どうしても、お値段がネックにはなるが、本州でもウチの標本ほどきれいなものはないので、いい機会が増えればうれしいと思う。　（お）

● 釧路自然再生協議会・第 3 回〔26 日〕

2003 年 11 月にスタートした協議会の 3 回目。最初 2 回はあまり話し合うこともなく、人数も多すぎて、なんだか変な集まりとなっていたが、それを改善しようとテーブルに分かれての議論形式となる（10 月の達古武の検討会でもそのスタイルで好評だった）。

1 テーブル 8 人くらいで、確かに話しやすく、後で自己紹介したり名刺交換したりもしやすかった。そもそも、こういう会は「交流」も重要な目的になるはずで、自己紹介する機会もない（したがってお互いに誰が参加しているかも分からない）というのは良くなかったと思う。

この日の私と同じテーブルでは、標茶の農協の人が「農地として使えないところまで農業やらせろとは言わない。ただそういうところはほっとけば湿地に戻るんであって、なぜわざわざ莫大な金を使うのか」と言っていたのが印象的だった。確かにヤチを農地にすることに努力してきた農業サイドにとっては、湿原の再生にお金をかけるというのは、庭にペンペン草を生やす事業にお金をかけるようなものかもしれないですな。「そんなもん、ほっとけば、いやっていうほど生えるって。わざわざタネ集めてまくやつがおるかいな」という．．．基本は残された自然を大切にして、自然の側に返す土地をどれだけ確保できるかというゾーニングの問題が大事なのではと話をした。　（お）

● 北海道自然史研究会・臨時総会〔27-28 日〕

北海道の自然史系学芸員が中心になって約 10 年前に結成された会である。われわれは 2000 年の春に入会した。今思えばかなり強引な話だが、初めて参加した会合で入会とともに次期事務局を任されることになった。会の主な活動は年 1 回の総会兼交流会の開催なのだが、事務局がちょっとふまじめだったため、2 年間総会が開かれずじまいになっていた。何か始めましょう、という会員の声もあって、まずは臨時でもということで総会が開かれた。

会の新たな活動の提案として、自然情報のデータベース作りや活用、道内に点在する自然史博物館の情報を集めたポータルサイト作りなどをテーマに話し合いがもたれた。酪農大助教授の金子正美さんや野鳥の会の神山和夫さんにも、ゲストとして講演をいただいた。その場の盛り上がりから、どうせなら助成金をとった方がということになり、急きょ書類を取り寄せて申請することに。〆切り間際の提出だったがめでたく当選。（に）

●札幌市樹脂標本納品〔30 日〕

札幌市博物館活動センターの展示として樹脂封入標本を納品。博物館緊急雇用対策事業第 2 弾となる平成 15 年度の事業分で、技術力もアップした分、質もボリュームも以前（平成 12 － 13 年度）よりかなりアップしたと思う。ただ、通常展示のスペースがあまりなく、6－7月の特別展まで出番がなかった。詳しくは、5月末のところで。　（お）

4 月

●事務所引っ越し〔28 日〕

会社設立以来４年間事務所として使ってきた新札幌駅前ハイツから、山岸ビルへ移転。理由は、一にも二にも手狭になったためで、1 月くらいから丹羽が探し続けて、ようやく決めた。詳しくは別ページで事務所紹介したので、ご覧下さい。（お）

● 西野川育てる会〔29 日〕

現在、札幌市の西部を流れる西野川の

再整備が行なわれている。ほとんどが住宅地のなかを流れている小河川だが、一部の区間は自然林の残っている公園と接する区間がある。この区間は地元住民もよく利用してきた経緯もあり、整備後も地元住民が親しみをもてるような川にしようと行政と時もち住民が取り組んでいる。昨年度から始まり、今年度から「西野川を育てる会」として両者が話し合いを続けている。これに調査館が今年度から事務局一員として参加している。会では、地元住民の要望で、親しみが持てる川であるとともに自然や生き物に配慮したような整備が望まれている。河川敷に自生している樹木はなるべくそのまま残すような河道に設計されたりしている。また、護岸・階段・防護柵などのデザインといった細かな点についての議論も毎回熱心に行なわれている。

※再整備の第一目的は治水能力の強化である。しかし、西野川は春先の融雪期にはまだ水量があるが、夏季には激減してしまいほとんど水無し川になってしまう。

下流ではすでに整備が終了しているが、巨大な岩のような石をつかった護岸をしており、住民からは過剰な護岸と景観にあわないことで評判は芳しくない。西野川周辺は水が浸透しやすいしキ質の基質で、大雨が降っても地形的に一ヵ所に集まりにくい。大雨時でも想定するほど川の水量が増えると考える人は地元でも少なさそうだが、護岸の基準が全国一律に設けられていることで、過剰に見える護岸が作られてしまうのだろう。水は無いけど治水強化の矛盾はしばしば育てる会でも話題に挙がっている…。

5月

● 倶知安カタクリ調査〔1日〕

毎年恒例になった百年の森ファンクラブとのカタクリ調査も5年目をむかえた。今年度は4月に入ってから季節のすすみが遅れ気味で、調査を行なった5月1日は、場所によってまだ芽が出たばかりの状態だった。そのため日当たりがよく、すでに開花している調査区について調査し、残りは後日（5/8）、皆さんに調べていただいた。結果を整理すると、今年の開花数はついに1万個体を超え、開花数を調べ始めた2001年からわずか3年で倍以上に増加。この増加理由はいくつか考えられるが、ササを刈ったことで花をつ

けるようになった株が増えたことや、調査開始時に採取禁止のお願いしてきたことが大きい。実際に、実験的に葉を採取した開花個体が、2年たっても回復して開花したのは1割にも満たない。開花を左右するのは採取の有無だけではないが、やはり採取によるインパクトの大きさが現状のデータからも伺える。

午後には、足を伸ばして百年の森周辺の林をカタクリの分布を調べに歩いた。尻別川沿いに見られる河岸段丘斜面には林が残存しており、こうした場所ではカタクリが少なからず分布していることが確認できた。今後、範囲を広げることで倶知安のカタクリマップができる予定！？

（の）

● アポイ岳調査登山〔11 ～ 12 日〕

道環境科学研究センターの委託で、ヒダカソウをはじめとするアポイ岳の希少植物群落の開花フェノロジー調査を行なう。このときは、第一回として、センターの西川さん・宮木さんや、アポイ岳ファンクラブのみなさんと一緒に登り、ヒダカソウの調査と開花調査の方法の確認をする。ヒダカソウの開花が早いという情報で、かなりあわててこの時期にいったのだが、5月に入ってからフェノロジーが遅れていて、まだ咲いていないエリアもあった。結実調査の準備もしようとしていた西川さんはがっくり。開花個体にはマークもつけて、今後も追跡がつづく。開花調査は、せっかくなので場所を決めてカウントもすることにし、幌満お花畑・9合目周辺・馬の背お花畑の3箇所の登山道沿いでやることにし、ファンクラブにもお願いする。ファンクラブとは去年とお金の流れが逆だが、連続しておつき合いできることになりうれしい。　（お）

● 西野フォレスターズクラブ行事〔15 日〕

今年度最初のフォレスターズの行事。西野西公園から裏山の送電線の鉄塔があるところまでみなで登り、送電線の下が熊の通り道になっていて、住宅地からとても近い場所にそれがあることを実感してもらう。市内では熊の出没情報が多い場所だが、これだけ近ければ、ちょっと住宅地に寄ろうかという気持ちにもうなずける。登ってくる途中には各自気に入った自然の落し物を思い思いに拾って歩いた。

午後は、河川敷に生えているハルニしの樹高と樹齢を測高ポールと生長錐を使って、予想しながら計測。そんな道具があるんだねえと多くの人が感心していた。もちろん、小さな木でも意外と年をとっていることにも感心していた。（の）

● 達古武鳥類調査〔20 日～〕

今シーズンも、釧路湿原自然再生事業の一つである達古武での自然林再生事業をＮＰＯトラストサルン釧路と行なうことになる。そのスタートとして、今年は昨年は十分に出来なかった繁殖期の調査

に入る。いつも鳥の調査をお願いしている道川夫妻と達古武に行き、トラストサルンの鳥調査担当の黒沢さんと調査方法や現地の確認をする（ちなみに今年から黒沢さんが理事長に）。今年は、再生対象地の塘路 64 地区や自然林の調査だけでなく、さまざまな樹齢のカラマツ林も対象とする。これによって、カラマツ林と自然林の比較や、カラマツ林の成長にともなう動物相の変化を調査するねらい。久々に早朝２時起きの鳥の調査につきあって、へろへろになった。　（お）

● **西野第二小の総合学習授業〔14 日〕**

西野川の再整備（４月の項参照）に関連して、地元の小学校の生徒達に川の自然について学習してもらう機会を設けることになった。最近の学校・先生は、なかなか忙しくこういった行事の調整は難しいものだが、西野第二小の串山先生はやる気満々で、直ちにこの日の行事が決まった。

この日は３年生３クラス約１００名を

対象とした授業で、水生昆虫をテーマとして、簡単な調査を体験してもらうことにした。いつも通り、環境を４つに分けて調査してみて、違いを比べる趣向だが、何せ一度に１００人という大人数。渡辺展・渡辺修・丹羽に加えて、樹脂制作班の松岡・柴田、雪印種苗の鈴木さん・荒いさんにまで応援頼んでの指導体制となった。

天気が悪くて一日延びたものの、当日は天気も良く、子どもたちも水温測定、昆虫採集と、提示した課題をどんどんやっていく。みんな大好きな採集は、案の定なかなかやめないし、学校に戻ってからのソーティングも「まだ小さいのがいるっ！」となかなか終わらない。授業の時間オーバーしそうでヒヤヒヤしたが、楽しんでもらった手応えのある授業だった。　（お）

● アポイ岳調査登山〔30 日〕

開花フェノロジー調査の 2 回目の調査として、アポイ岳ファンクラブのみなさんへの方法の説明を兼ねて一緒に登る。前日と翌日は雨だったが、たまたま当日はよい天気に。通称「馬の背」、「幌満お花畑」、「8 合目」の 3 ヶ所で実施。アポイアズマギク・ヒダカイワザクラ・エゾキスミしなどが咲いていて、楽しい調査だった。　（に）

●札幌市博物館活動センター・第 12 回 i ミュージアム企画展「見る・観る・魅せる封入標本」展（5/29 ～ 7/31）

札幌市博物館活動センターで、調査館が 2003 年度に納品したアクリル封入標本を使った企画展が 5 月下旬から 7 月にかけて行なわれた。チョウやカエルが成長していく様子を段階ごとに封入したものや、豊平川に住む水生昆虫、札幌に見られるシダ・水草・クワガタ・セミのシリーズなど 200 点近くの標本が展示された。

また、今回は封入標本と連動した展示として、似た仲間の見分け方や解説が見られように製作したコンピュータ展示も併設した。200 点近い標本が集まると中身はともかく部屋は壮観で、特に A4 版の大きさで作成したシダ標本は、観察もしやすいがインテリアとしての見映えもよく、展示室を華やかにしていた。　（の）

６月

● 道新フォレストウォッチング〔12 日〕

昨年に続き、道新野生生物基金主催の行事に「協力　さっぽろ自然調査館」で 5 回の観察会を引き受ける。1 回目は、道民の森で「植樹体験と森の散策」。親子を対象にした体験もので新しい試みだったが、ちょっと参加者が少なめだった。午前中の植樹体験は漁組の「お魚殖やす植樹運動」の行事とタイアップしたものだったが、漁組の人たちは参加者を「都会のボランティア」と勘違いしていたようだ。もっとも、植樹自体は子どもも大人もそれなりに楽しんでいた。午後からの散策は、天気が悪くて歩きづらかったのと、人工林が多くてあまり花がなかったのがやや残念だった。　（に）

● 崕山調査登山〔13-14 日〕

はや 5 年目のキリギシ山調査。北海学園大教授の佐藤謙さんを調査隊長に、道庁自然環境課の新田紀敏さん、バイトの大高くん、丹羽の４名で、キリギシソウなど希少植物の追跡調査を行なう。当然かもしれないが、一度大規模な盗掘を受けた群落はそうやすやすと回復してはくれない。そのことを実感した調査だった。

２日連続の登山はキツイが、たった 1 日でも昨日つぼみだった高山植物が咲いていたりして感動。季節の移り変わりの速いこの時期ならでは。

後日談だが、下山して 1 週間したころ

急に未体験しベルの高熱と全身の激痛に襲われる。最初内科ではカゼとの診断だったが、ふとした心当たり（マダニにやられた！）からライム病ではないかという疑いを持つ。ネットで調べると症状が酷似、特にじんましんのような赤い発疹が。改めて皮膚科を受診、血液検査の結果は陽性だった。うわさでは聞きながら他人事だった未知の病が、実は身近な脅威であることを知る。ちなみにライム病の病原菌ボレリア細菌は、エゾシカなどが普通に保菌しているらしい。ただ、人同士の感染はなく、かかってしまったら早めの抗生物質が有効とのこと。　（に）

● 達古武で森林小委員会〔15 日〕

自然林再生のための調査を実施している達古武において、自然再生協議会の森林小委員会（第２回）が開かれた。「こういう話は現場でやろう！」という中村委員長の一声で、現地視察を含む委員会が開催の運びとなった。私たちは、トラストサルンの杉沢さんや環境省の田畑さんと共に、会議では説明要員、現場では案内人として動く。昨年の再生大会から始まって、良くも悪くも「視察」の対応には慣れてきた気が．．．　（お）

７月

●道新フォレストウォッチング〔４日〕

白老のポロト湖畔の散策路を周遊した。札幌ではすでにかなり暑い日が続いていたが、ここは風がさわやか。小鳥のさえずりはさすがに少なかったが、自然の湖沼を眺めながらの散策は参加者にとても好評だった。自然林の中にはミズナラの大木が点在し、フォレストウォッチングの名前にぴったりの場所といえる。季節を変えて、早春のミズバショウや晩秋の紅葉もよさそう。多少遠くて往き帰りに時間がかかるのがやや難点か。　（に）

● 西野第二小の総合学習事業〔５日〕

西野第二小の総合学習二回目は、同じ虫つながりで歩行性昆虫をテーマに行なった（というのも３年生は理科で虫のことを学習するので、授業と関連づけやすい）。西野川の河川敷やそれに隣接する森林や林縁など環境が異なる場所にトラップをしかけて、回収し、すむ虫の違いを調べた。トラップはコップを地面に埋めたもので、これを数日前に調査館スタッフが埋め、授業当日に子どもたちにトラップを回収してオサムシやシデムシなどの種類ごとに虫の数を数えてもらった。

コップに虫がたくさん入っている光景は、大人には気持ちいいものではないが、恐いもの見たさもあってか子どもたちは積極的にトラップを回収していて意外と頼もしかった。また、マイマイカブリを知っている児童はいても、シデムシやゴミムシといった虫はなじみがなく、初めて見る虫をいやがらずに興味深くみている子が多かった。森林ではそこそこ虫が捕まっていたものの草地ではとれず、担当した班は班になってしまった。

ちなみに、前回と同様に3年生3クラスが参加したが、前回の反省を生かして、なるべくスタッフ一人が面倒みる児童数を少なくしようと、今回は全クラス一斉に行なわずに、1クラスずつに分けて行なった。しかし、短時間に同じ内容の授業を3回繰り返し行なうことになり、1日何回公演とかやっている役者の気持ちがちょっとわかった気がした。しかも1クラスあたりの持ち時間は80分ほどで、最初の説明からトラップ回収、まとめまでをスムーズに行なわなければならない。終わったと思ったら休むまもなく次のクラスが始まるといった感じでてんやわんやだった。大人しいクラス・騒がしいクラスいろいろだが、騒がしいクラスは言うこと聞かずにヘトヘトに…。　（の）

展君の説明「この大きい虫はマイマイカブリといって、マイマイというのは．．．」「知ってるよ、カタツムリでしょ」、展「あ、よく知っているね、カタツムリを食べるんですけど、液を出して溶かして食べてしまうんだね」「溶かしてたべるはおかしいでしょ、溶かして食べるは。溶かしたら「飲む」だよっ」と、ずっとつっこみを入れる子どもがいて、私は可笑しかったです。　調査のまとめの時も、展「オサムシの仲間は何匹捕まったかというと．．．．」「10匹っ」、展「いや、捕まってないでしょ、この大きいのだよ。それからシデムシは．．．」「10匹」、展「これも捕まってないでしょっ（怒）。0匹ですね」「10匹」．．．確かに大変です（笑）。面白かったけど。　（お）

● 釧路全体構想検討〔11日～〕

「全体構想」というのは、自然再生を進める上で基本的な枠組みを決めるもので、協議会が制定することが法律で決まっている。いわば、釧路の自然再生事業における「憲法」のような存在である。しかし、100名もの委員では、実際に案文の議論など出来るはずもなく、ワーキンググループをつくって検討をすることになった。

そのたたき台となるのが、行政で構成される事務局でつくったものなのだが、おせじにもきちんと考えてつくったものとは言い難く、つい口出ししたくなり、ワーキンググループにも参加することにした。しかし、これはいつも釧路で開催される上に、まあまあ頻度も高く、特に7月～9月には毎週おおぞらに乗る羽目になってしまった。

内容に関しては、はじめはシンプルに原則を整理するだけのつもりだったが、農政サイド、地元、NPOと、それぞれ言い分もあり、その調整でなかなか面倒なことに。乗りかかった船なので、何とかまとめて、皆さんそこそこ納得していた

だく形になったのが、11 月。この号が出る頃にはパブリックコメント募集ということで、一般にも案を公開して、意見を募集していますので、ぜひ見てみて下さい。私の苦心作なのですよ。内容については、次の機会に解説を。　（お）

http://www.kushiro-wetland.jp/news/conception/

● 西野フォレスターズクラブ行事・チカバの自然〔17 日〕

昨年度、フォレスターズクラブで行なったネズミの観察会の評判がよく、その後の通信（前号）を見て、ネズミの観察小屋を作ってストレス与えずにじっくり観察してみたいと熱心に誘いを受けて協力させていただくことに。今まで観察小屋を設置できる機会はなかったので、こちらとしても興味深々だった。まずは、設置場所を決めるため、観察小屋の候補地を何箇所か決めてネズミの生息状況を調査し、せっかくなのでそれをフォレスターズの行事として観察会形式で行なった。今回は参加者が少なかったが、生け捕りワナを使って捕まったネズミは参加者を上回るほど密度が高かった。アカネズミとヤチネズミの両方を見ることもでき、観察会としてもいい具合だった。　（の）

※観察小屋ハウスを設置！

その後、観察小屋計画は、西野在住の建築士・渡辺賢一さんの協力で設計図ができたものの、設置手続きや小屋の作り手の確保などで大幅に遅れてしまう。場所も二転三転して小屋の管理がしやすい場所にした。結局、10 月下旬にようやく完成したが、もう冬のはじめる時期になってしまったために、本格的な利用は来年度に。しかし作りはかなりしっかりしていて、ネズミにも快適そうで春が待ち遠しい。

●手稲さと川探検隊―中の川の生きもの調べ〔7/31〕

釧路の再生事業などで調査館と仕事をよくご一緒にしている鈴木玲さんが、札幌の自宅そばにある中の川で、子ども向けに川の生きもの調べを主催した（http://harunire.hp.infoseek.co.jp/nakanogawa.htm）。渡辺展が家に近いので遊びにいく。この日は今年度の暑い夏を象徴する暑い日で、川に入っての水遊びする子どもたちはとても気持ちがよさそうだった。

前日に鈴木さんがしかけておいたペットボトルで作ったワナをみんなで結果を

予想しながら回収。ワナにはイバラトミヨ・ウキゴリが入っており、子どもたちも食い入るように観察していた。また、ワナには入っていなかったが、モズクガニが見つけどりされて、人気者になっていた。　（の）

８月

● **道新フォレストウォッチング・利根別自然休養林〔1日〕**

第３回は昨年度と同じ場所である岩見沢の利根別自然休養林へ。札幌の野幌にあたるような市街地近郊に残された原生林で、太さも直径 1m 級の樹木も多く見られる森林散策しがいのある森林だった。4班に分かれて班ごとにガイドがついて散策していたが、なかなか見ることができないツチアケビを観察できた班もあった。ちなみに私が担当した班の方には観察させることができなかった（涙）。
（の）

● **西野フォレスターズクラブ行事「夏・ここいちばん」〔18 日〕**

クマとの遭遇を考えて散策路の見通しをよくするために 2002 年からササ刈りを行なっているフォレースターズ。今回も参加者にササ刈りをしてもらったり、刈った後の植生の変化を調べたりした。行事の最後には、フォレスターズクラブお手製の夏カレーが参加者に振舞われた。家庭の味でおいしかった。（の）

● **生態学会・全国大会〔25 ～ 29 日〕**

７つの地区が持ち回りで開催する日本生態学会の全国大会が今年は釧路で開かれることに。せっかくの地元開催、しかも再生がメインテーマなので、持ちネタを発表することに。しかし、シーズンまっただ中で、まとめもしていない材料なので、かなり大慌てで作業するハメに。結局、他の人の発表はほとんど見られずじまいだった。

ウチの発表は、ポスターで二次林の動物を用いた評価（展）・保護区設定の分析（修）・ベニバナヤマシャクヤクの個体群動態モデル（丹羽）、自由集会で達古武の GIS を用いた事例の話（修）だった。

29 日にはエクスカーションで、再生現場を案内することに。また視察ですか．．．という感じではありますが。　（お）

● 滝川花卉採集〔8/9、11、9/29、10/26〕

前年に引き続き、北海道のオリジナル切り花のための植物採集を行なう。前年はひたすらタネを集めたが、タネからでは栽培に時間がかかりすぎるものもあるので、いくつかの植物は株ごと掘り取る。見た目はどうみても盗掘だが、もちろんルールに則って行なう（決まった場所で少量しか取らないとか、珍しいものは取らないとか）。場所は、滝川市の道立畜産試験場内と、試験場つながりで新得の農業試験場で行なった。ヤナギラン・クガイソウなど北海道らしいもの。なお、昨年度採集したタネは冬の間にまかれていて、全然発芽してないものがある一方で、トモエソウなど夏にはすでに花を咲かせているものもあった。サイズや成長速度は、人為的にかなりのところまでコントロールできるという（盗掘を助長するわけではありません、念のため）。　（に）

９月

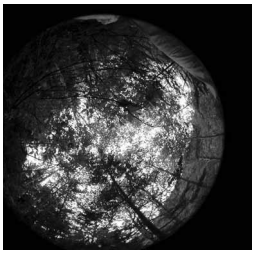
●道新フォレストウォッチング・羊蹄山自然公園〔5日〕

第４回は、真狩側にある羊蹄山自然公園へ。あいにく羊蹄山の山頂部は雲がかかっていて、全貌を見ることはできなかったが、山麓は天気に恵まれる。ちょうど、キノコとりの時期ということもあり、キノコに詳しいガイドの方にも来ていただいて、散策路沿いのキノコについて、いろいろと解説をしていただく。キノコに関する参加者の関心は高く、自然観察会での山菜ネタの重要性を再認識させられる。

このとき林内の風倒木を使って、台風などで樹木が倒れて新しい木が更新していくような話を説明したが、翌週には台風 18 号によって各地で大規模な風倒が発生。大きな被害をもたらしたが、自然から見ると森林が今後どのように更新していくかなかなか巡り会えない過程を見ていくことができそうである。　（の）

● 東大雪希少植物調査会〔18-19 日〕

ひがし大雪博物館友の会との協同で、希少植物ベニバナヤマシャクヤクの調査を行なう。2002 年に最大の調査個体が盗掘されたが、その後も盗掘が続いているらしく、全体に個体数が減少しており生々しい掘り痕もみられた。このまま次々盗掘されるのを放っておいてよいものかどうか…。帰りの然別湖畔では、台風 18 号の暴風でなぎ倒されたエゾマツやトドマツの倒木群を観察。洞爺丸台風以来といわれるだけあって、感動的とさえ思える光景だった。被害の面ばかり強調されるが、北海道の森林に台風は有史以前から深く関わってきたはずで、「これも自然の営みである」という観点がも

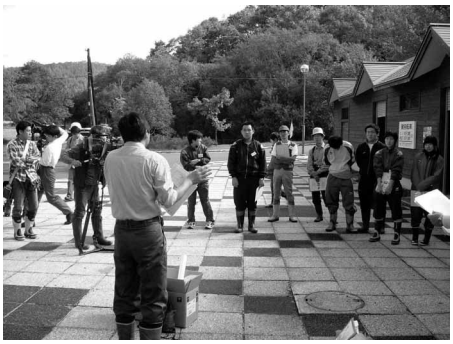


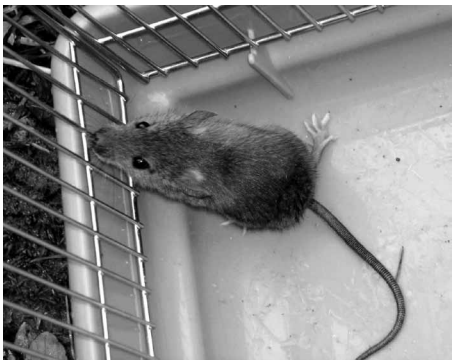
う少しあってもよいのではないかと思う。なお、前夜は川辺さん夫妻の別宅に泊めてもらった（いつもながら感謝しています）。　（に）

● 達古武カラマツ林調査会・野ネズミ編〔23日〕

達古武のカラマツ林を舞台に市民参加の調査会を実施。自然再生、自然再生とはいうものの、どういうことをやっているのか、どんな場所が舞台なのかを知らない人がほとんどではないだろうか。この調査会では、テーマはウチの定番メニューだが、自然再生の現場を実際に調査しながら体験してもらうということで企画した（環境省東北海道地区事務所主催）。

応募者があまり多くなく、やきもきしたが、地元標茶高校から生徒が6名参加して、8名で実施した。この回は一番受けの良い野ネズミの調査で、自然林とカラマツ人工林を比較する形で行なった。結果は非常に分かりやすく、自然林ではアカネズミがたくさん捕まったが、カラマツ林はさっぱりだった。動物のすみかとしての評価でカラマツ林が劣ることが分かりやすかった（あまり分かりやすすぎるのもどうかと思うが）。実際に野ネズミを捕まえる体験に満足してもらったと思うが、前日は雨模様で捕獲したネズミの半数は死んでしまっていて、参加者もちょっとがっかり・ショックだったかも。





取材としてＮＨＫ・道新・再生事業取材班と来ていて、ＮＨＫの若い記者には「ネズミほんとに捕まりますか」と前日から何回も念押しされてしまったが、実際に生きているネズミを見せられて良かった。全道版で何回か放送されたので、見た方も多かったようで。何故かＮＨＫも道新も調査結果を詳細に報道していて可笑しかった（まあ報道の基本かもしれませぬが、今回の行事の本質ではないような）。

スタッフは環境省・調査館・雪印・アークスから2名ずつ8名と、参加者と同数（笑）。それでも本調査を兼ねていることもあり、参加者のケアも考えるとそう多すぎる感じではなかった。昼には孫田さんが札幌から持ち込んだダッチオーブンでのピザなども準備してもらい、みなさんお疲れさまでした。　（お）

１０月

●滝野公園森林体験プログラム―第１回森の小動物を知る―〔2日〕

札幌市にある国営滝野すずらん公園には未だ開園していないエリアが大面積を占めている。その一つである「森林体験ゾーン」が開園に向けて、利用者へのソフトの一つとして環境教育プログラムを考えている。そこで開園前に一般の参加者を募ってプログラムを実践して問題点や改善点などを整理したり、ボランティアとして活動してもらうための人のつながりをつくることも目的に、6回のプログラムが行なわれることになった。

第１回目は、アークスの孫田さんと調査館が担当して、野ネズミの調査体験のプログラムを行なった。本来はもっと早い時期に行なう予定だったが、事務所の了承が出ないなかで日程も遅れてしまい

正式に決定してから間もなかったため参加者の集まりがよくないなど厳しい条件が重なったプログラムとなった。草地や森林など環境の違う7ヵ所に各10個ずつ合計70個の生け捕りワナを仕掛けて、予想をしてもらいながら調べていった。

結果は、広葉樹林の2ヶ所で捕まったが、残念ながらいずれもワナのなかで亡くなっていた。前日から当日にかけて気温が大きく下がったことが大きな原因だっだが、やはりこの時期にこのテーマは難しかったと後悔。子どもたちも動かないネズミをしげしげと観察していたが、生きているネズミの姿を見せることができず申し訳なかった。なんといっても、ネズミに一番申し訳なかった。　（の）

※プログラムのほうは現在までに5回まで終了していますが、6回目「動物の足跡を追う」が2月17日に行なわれるので関心ある方はぜひご参加ください。詳しくはこちらのホームページを。→ http://www.arcs-inc.co.jp/takino/workshop_info/workshop_info_top.html

● 道新フォレストウォッチング・道民の森と宮島沼〔3日〕

第5回は、道民の森と美唄の宮島沼へ。昨年も同じ時期に来ており、同じコースをたどる。道民の森は面積が広大で地区が幾つかに分かれているが、月形地区のおよそ2km程度の散策コースを周る。昨年も思ったが10月の森林は、花もなく観察会としてはネタが不足がちになる季節である。ただし今回は、9月の台風18号の影響でトドマツの倒木もあり、普段は見られない実を観察できるなどメリットもあった。

午後はラムサール登録地の宮島沼へ行き、湖で羽を休めているマガンの大群を観察。ほとんどがマガンだが、たまに違う種が混じっており、それを小堀さんや道川さんが目ざとく見つけて、自分のプロミナにおさめて、参加者が観察できるようにしていた。参加者も、大きく写ったカモに喜んでいた。　（の）

●滝野公園森林体験プログラム―湿地環境をつくる―〔9日〕

第2回は、一緒にお仕事をしている高野ランドスケープのスタッフが担当したプログラム。スタッフと参加者合わせて20名ほどが集まった。調査館からは、「半

分スタッフ半分参加者」気分で渡辺展・野村が参加。小さな沢を木の幹・枝・ササや落ち葉を使って水をせき止めて、水面をつくることに精をだした。

班に分かれて工具を使いながら協力しあっての作業で、川遊びの大人版といったところ。各自、夢中になって作業し、いかに水をせき止めてサンショウウオの産卵池や広い水面をつくるかに知恵と体力を注いでいた。作業終了後に互いの班で出来映えを鑑賞しあった。開園時には滝野では見られないさらに大きな池が見られるかもしれない。　（の）

●アポイ機器設置〔15 日〕

道の環境研経由で、国立環境研の気象観測機器の設置業務を請け負う。地球温暖化がアポイ岳の希少植物にどのような影響を与えるか予測しようというもの。まず重さが何十キロもあると聞いてびびるが、実際は 30 キロほど。しかも、様似山岳会の精鋭が 5 人も集まり、意外なほどやすやすと運び上げられた。

むしろ問題はその後で、強烈な風を受けながらの設置作業はかなり厳しかった。しかし、ここでも工具の扱いに慣れた山岳会のみなさんが率先して作業に当たってくれたおかげで、何とか日のあるうちに下山することができた。果たして観測が順調にいっているのか気になる毎日である。　（に）

●達古武カラマツ林調査会・木の実編〔16 日〕

9月に続いて市民参加の調査会を実施。今回はちょっと参加者が増えて 13 名に。標茶高校からも別の生徒も含めて参加してくれた。テーマは、カラマツ林の自然林転換の直接的なカギとなる種子散布と稚樹の生育状況。種子散布は、8 月に設置したシードトラップの回収をして数えてもらい、どの樹種のタネがどのくらい、どこまで飛んでいくかを調べた。

シードトラップの回収は調査会のネタとしては絶対に面白いのではと前から思っていたのだが、今回は天気も良く暖かかったこともあり、かなり好評のようだった。作業内容や目的が非常に明確だからだろう。高校生たちも執念深くタネを探し、マニアックなシラカバとダケカンバの見分けをやってました。ただ、タネに時間かけすぎて、稚樹調査はあまり出来ずに残念。

今回の昼ごはんは、孫田さん故郷の芋煮鍋で、ちょっと焦げすぎの前回のピザより大変好評でした。ここは、達古武キャンプ場から歩いていける場所にフィールドがあり、行事の発展性に可能性を感じ

る場所である。野外博物館・野外実験場として充実させていくことで、面白いことがいろいろ出来そうである。　（お）

● 滝野公園森林体験プログラム―木の実を調べる―〔23 日〕

「木の実を調べる」というテーマで、調査体験会を滝野公園で実施。「森の生き物調べ」シリーズの 2 回目である。散策路を歩きながら枝先についた果実や、路上に落ちた果実を探して観察。今年は秋の台風で倒木や落枝が多く、いろいろな果実を拾うことができた。また、1 ヶ月ほど前に設置しておいたシードトラップからタネの回収を行ない、室内に持ち帰って一つ一つ数を数えた。

木の実といえばドングリやナナカマドのようなものがイメージされやすいが、実際にはダケカンバ・シラカバなど極小のタネの多さを体験。集計して母樹からの距離と種子数の関係を調べ、母樹から遠ざかるほどタネが少なくなることを確認する。初雪の滝野だった。　（に）

● 西野フォレスターズクラブ行事「はっぱっぱカーニバル」〔23 日〕

いつもユニークな企画名をつけるフォレスターズクラブ今年最後の行事。この日は滝野公園の体験プログラムと重なっていたため、またまた渡辺展のみ参加。西野西公園で、草木染め・落ち葉や倒木を使った工作・紙芝居・落ち葉の堆肥作り・苗木の移植などいろんな企画を多数の協力者が集まって開かれる予定だったが、朝からの大雨でやむなく中止に。どんなカーニバルぶりになるか楽しみだっただけに残念。いろいろと準備したフォレスターズの宇野さんや井上さんがかわいそうだった。

今年はフォレスーズクラブの行事によく出させていただきましたが、スタッフのみなさんこれからも懲りずによろしくです。　（の）

● 上野幌中学から会社見学〔29 日〕

事務所に比較的近い上野幌中学から、「生き方を見つめる」という授業での生徒の会社訪問を受け入れるように要請があり、教員の有無を言わさぬ「生徒のためになることを断わるわけないですよね」という強制力に屈服して「いいです」と答えたものの、一体何の企画かよく分からず、1 日仕事を体験させてやってもというようなことを言うので、職業体験のようなものかと思うが、それは室内ではウチは難しいなと思っていたら、生徒からの質問の紙が届き、それには「札幌の自然は最近どうですか」とか地域のお年寄りに聞くような質問やら、「あなたにとって自然とは何ですか」とかいう禅問答のようなことまで書いてあって、ほとんど謎のままの行事（笑）。

実際には女子生徒 3 名が来て、事情を説明してくれたが、マスコミやお店に行く生徒もいて、そういう場合は職業体験みたいなものらしい。彼女らにはとりあえずどんな仕事をしているかについて説明して、樹脂制作・標本制作・同定・パソコンによるＧＩＳ解析などをざっと見てもらった。「ふーん、いろいろ大変ですね～」と感心しながら去っていきました。

（お）

11 月

●滝野公園森林体験プログラム―ササで遊び場をつくる―〔6日〕

第４回は第２回同様に高野ランドスケープのスタッフが担当したプログラムで、滝野公園の林内に優占し豊富な資源といえるチシマザサを使って、迷路や小屋・塔などを作って遊ぼうという企画。スタッフ・参加者合わせて 50 名近くの人が参加した。このときも調査館からは渡辺展・野村が参加。ササの刈り取り部隊と作り手に分かれて作業開始。機械に頼らずに人力でササを束ねてたり組んだりして作り上げていったが、刈るのにしても束ねるにしても意外に力が必要な作業でいい運動になった。当日は途中氷雨がふる厳しい中での作業だったが、みな熱心に体を動かしていた。しかしせっかく作った作品が、冬を越したときに壊れてしまうのかと思うと少々もったいない気がした。その場限りというのがまたいいのだろうか。第２回、第４回と普段はこうした活動系の行事には出る機会がないため新鮮ではあった。

12 月

●北海道友の会講演会〔6日〕

年末恒例の講演会・忘年会に参加。演者の山崎真美さんは、前年演者の古澤仁さんと同じ札幌市博物館活動センターのスタッフ。『水草調査～フィールドノートから～』というタイトルで、水草調査のご苦労や面白さ、未発表の最新情報などを約１時間にわたり詳しく紹介していただいた。会報「菩多尼訶」の 21 号も配布される。（に）

●アポイ岳ファンクラブ役員会議〔9日〕

固有種が多いことで知られるアポイ岳では、希少植物群落の減少が以前から問題視されている。詳しいメカニズムは分かっていないが、樹木や高茎草本の増加が影響しているようだ。これまでもアポイ岳では、地元のアポイ岳ファンクラブのみなさんがさまざまな保全活動を実施している。希少植物の減少問題に対しても、何らかの手を打つべきではないかという声は地元では強い。しかしなにぶんにも、国の特別天然記念物・国定公園に指定されていることもあり、樹木などを伐採・除去することはたとえ小規模な実験でもファンクラブ単独では実行できない。そこで関係行政や研究者を含めた「協議会」のような組織を作って、どういう保全のやり方があるかを検討していってはどうかということが検討されている。

その第１回目の準備会議となるファンクラブ役員会がアポイ山荘の会議室で開かれた。元東大教授の渡辺定元さんをはじめとする役員十数名が集まり、調査館からは丹羽がしジメを持って参加した。準備したしジメを説明するが、これはあまり役に立たなかった。代わりに、自らNPOを組織するなどして保全活動を行なっている定元さんから、体験に基づいたアドバイスが次々あり、一応の方向性が決まる。

引き続いて懇親会に移り、アルコールが出ていつものファンクラブの雰囲気に戻る。二次会では館内にあるカラオケスナックに行き、谷村会長が歌や踊りを披露してくれた。翌日、定元さんを千歳空港まで送る。自分にとっては教科書の中の人だったので緊張もしたが、長い道中、定元さんの研究史を詳しく聞くことができ有意義な経験となった。　（に）

●自然史研究会・臨時会議〔18 日〕

えりも郷土館の中岡利泰さんの呼び掛けで「作戦会議」を北大博物館で開催。春の臨時総会に続く今年度 2 度目の集会で、遠くは中標津や美幌などからも参加があった。「北海道の自然史絵本」づくりなどの新規取り組みの提案や、会の活動方針が話し合われる。調査館からは、渡辺修が自然史ポータルサイト・自然史情報データベースの製作や運営についての確認と、丹羽が会員アンケートの結果紹介を行なう。夜はそのまま懇親会となり、終電間際までうたげが続いた。今後の展開に乞うご期待。（に）

調査館・スタッフ体制について

さっぽろ自然調査館も、会社として5年が経とうとしているわけですが、スタッフはあまりかわり映えはしません（というか役員がそう変わっていては困るけど）。ただ、臨時職員は、緊急雇用対策の関係もあって、顔ぶれ変わってきています。ここでは、私事のご連絡も含めて、簡単に紹介します。

●役員

・渡辺　修
・丹羽真一
・渡辺展之

●社員

・宮原由実（今は育児のため休業中）

● 2004 年度臨時スタッフ

・松岡久美子（2001 年度から断続的に）
・柴田　綾（2001 年度から断続的に）
・野村昭英（2004 年度）
・鈴木　有（2000 年度から断続的に）
・大高洋平（2000 年度から断続的に）

現在 9 名在籍。

● 2003 年度臨時スタッフ

・石井　陽（2003 年度）
・塚田　海（2003 年度）
・後藤貴保子（2003 年度）

そして、私事で恐縮ですが、渡辺修と宮原由実は 2003 年 6 月に入籍、2004 年 11 月に第一子誕生、渡辺展之は 2004 年 6 月に入籍、9 月に式を挙げました。（書け、という人がいるので書いたよ）

2004 年 11 月 20 日に生まれた「るい」。これは 4 日目。

2004 年 9 月の挙式。公家がパソコン使っているよ。

事務所お引っ越し（4月）

西野川のマガモ（4月）

倶知安百年の森カタクリ（5月）

倶知安・ヒナコウモリ（5月）

西野川遊ぶ子ども達（5月）

アポイ岳ヒダカソウ調査（5月）

タチツボスミレ（5月）

西野第二小授業（5月）

西野・水生昆虫しらべ（5月）

西野フォレスターズ行事（5月）

アポイ岳・ヒダカソウ（5月）

アポイ岳・エゾキスミレ（5月）

フイリミヤマスミレ（5月）

釧路オオバナノエンレイソウ（5月）

釧路センダイムシクイ（5月）

西野川水生昆虫調査（5月）

道新FW道民の森（6月）

崕山アオチャセンシダ（6月）

達古武・森林小委員会（6月）

道新FW白老ポロト湖（7月）

ポロト湖キヨスミウツボ（7月）

札幌市博・企画展（7月）

シダ封入標本（7月）

西野第二小・歩行性昆虫（7月）

フォレスターズねずみ（7月）

手稲川・さと川探検隊（8月）

道新FW利根別休養林（8月）

達古武昆虫調査（8月）

滝川花卉資源収集（8月）

西野フォレスターズ行事（8月）

釧路生態学会案内（8月）

滝野公園訪花昆虫調査（9月）

東大雪シャクヤク調査（9月）

ベニバナヤマシャクヤク（9月）

東大雪希少種調査（9月）

釧路カラマツ調査会（9月）

釧路・ヒメネズミ（9月）

滝野公園ネズミ調査（10月）

ネズミ調査体験（10月）

頒価＝300円